

2017年9月 No36

グループホーム「だんらん」 11 月開所へ 準備急ピッチで進む

グループホーム「だんらん」の開設準備が急ピッチで進んでいます。

「希望」の会員の皆様をはじめ多くの市民・団体からのご協力を戴き、四街道市も前例のない補助金支給の予算を決定して戴くなど、ご好意と関心が高まるなかで 11 月の開設に向けて準備が進んでいます。

このグループホームは、地元のオーナー様が、地域貢献につながる土地の有効活用として建設した施設を、法人「希望」が賃借して運営、6 名の入居者定員で開設するものです。

写真は 9 月 20 日現在ですが、外観は御覧のように整備され、内装も完成間近です。

一方で、「希望」が事業者としての認定を得る手続きも県に申請中で、両方が完了すると晴れて開設を迎えます。

事業に従事するスタッフは、管理者（施設長）に法人理事の清水真奈美さんが就任、サービス管理者は「精神保健福祉士」の資格を有する専門家高根留美さん、さらに世話人、支援員をはじめ医療の専門スタッフとして看護師さん、協力医療・協力歯科医療機関なども決定しました。

開設後、入居者はコミュニティの一員として相互に交流を深めて地元の皆様に受け入れられる事が求められます。

なお、開かれた施設を目指してボランティアや会員の皆さまにもぜひお出でいただけるようにしたいと関係者一同考えております。



随想

「役立たず」

副理事長 小林征司

若者が数名でサッカーに興じている。

女子学生たちが背中のリュックを揺らせながら全身で笑い転げるように通り過ぎる。

思わず目を閉じ耳をふさぐ。

いつの頃からだろうそんな健康的な明るさに生理的な嘔吐を感じるようになったのは……。

貴方はいつも俯いていた。部屋の隅で座っていた。一人だった。

私は貴方を見ていた。いつも長い時間貴方のことを見つづけた。

でも何も出来なかった。話かけたくとも何を話してよいのか分からなかった。

だって貴方の悩み、貴方の寂しさ、貴方の悲しみを解放することなんかできないことが分かっていたから。

私に出来ることは、ただ貴方の隣に座り貴方の話を聴くことだけ。

なんのアドバイスも、なんのヒントもあげられないことは分かっている。

そんな私に貴方はその重い口を開いて話しかけてくれるだろうか。まるで自信がない。

でも、貴方の声を聴きたい。思いを聴きたい。何も出来ないけれど貴方に寄り添っていたい。貴方の話を聴きたい。

ただ聴くだけではだめですか？

一生懸命聴きます。貴方の声だけを心の耳で大切に聴きます。

だから話してくれますか？

こんな役立たずの私に……。

「家族会ホープ」恒例の暑気払い

どんぐり工房転居後初会合

ホープの暑気払いは、毎年「どんぐり」を会場に使用して戴いておりますが、今年は8月5日（土）転居後初めての集いでした。皆さん会場が分からず、戸惑ったようですがおかげでホープ会員の皆さんにも、「どんぐり」の場所と建物の中も知って戴く機会になりました。今後は是非気軽においでください。（Y）

詩

「鏡」

作とも

詩集第21作より

心を映す 鏡があったら……

私の心はハッキリと

映っているかしら

もっと磨いたほうがいいかしら